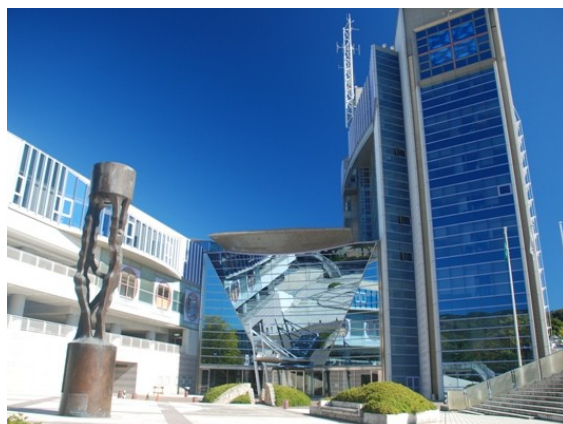


## 役所は地味だが幅広い

第7期 OG 白岩 沙也佳

前回書いた近況報告から4年経っていました。書くことないな〜と思っていたけれど、さすがに4年経っていれば、2回異動したし、普通に仕事の話書けばいいかと思った次第です。悲しいかなライフステージは何も変わらず、年月だけが過ぎていく。タラレバ娘読んで息も絶え絶えな現状。

4年前（つまり最初の配属）は幼児教育課で庶務の仕事をしていました。内容は4年前書いたので割愛。まあ、事務仕事なので、皆さんも想像しやすいと思いますし。幼稚園の引っ越しとか草刈りとか意外と力仕事も多かったですが。



著者の職場（静岡県伊東市役所）

入庁して3年半後、環境課美化推進係に異動。ごみ処理関連を担当する係です。担当する仕事は色々でしたが、一番印象に残っているのは、年2回あるごみ減量を推進するためのイベントの運営と、不法投棄対応。伊東市はごみ収集及び処理が一部直営なので、40人ほど収集・施設職員がいます。イベント運営の際は私が指示を出して企画準備から当日まで動いてもらうわけですが、まあ、こんな小娘の言うことを勤務20~30年のベテラン達が聞いてくれるわけなく。私自身も人に指示を出して動いてもらうのは大の苦手です、上司や先輩を頼りまくってなんとかこなしました。不法投棄対応は、まず現場に行かなきゃ始まらない仕事ですが、まず私、運転できねえ。しかも地理も分からねえ（地元ですが何か）。さらに、私有地にされた不法投棄は、投棄者が明らかにならない場合、土地の所有者が処理することになっているので、もちろん「行政は何もしてくれないの？」となるので、クレーム確定。これも上司や先輩を（以下略）。一方で、投棄されたごみに個人情報を見つけたら、警察を呼んで調査に立ち会います。公有地は市が清掃することとなるので、収集職員と一緒にドロドロになりながら収集しました。別の仕事ですが、焼却施設で収集業者が回収したごみの中身を抜き打ちで調べて、ちゃんと分別されているかを確認したこともありました。ぶちまけた生ごみを掻きわけて、カンなどの不燃物やダンボールなどの資源が混入していないか調べるのは、見た目も匂いも強烈でした。

現在は社会福祉課の障害福祉係で知的障害のケースワーカーをしています。はて、まず障害関係の仕事って何？ 知的障害って何？ というところから始まりました。介護の分野では、高齢者がヘルパーに家事を手伝ってもらうとか、デイサービスに通うとか、聞いたことがある方も多いと思います。障害福祉の制

度も介護をやって作られたので、ほぼ同じことをしています。障害者とその家族の話を聞き、どのような障害を持っているのかを把握し、どんな支援が必要なのかを考え、サービスが使えるように手続きを取ります。もちろん私は福祉の資格どころか知識もないので、外部の有資格者と一緒に支援方法を考えます。私は在宅担当で、130人ほどを担当しています。必要であれば、障害者の自宅を訪ねます。また運転かよ...。でも市内であれば運転もできるようになりました。Google ストリートビューには感謝してもしきれないです。しかし福祉の現場はスゴイです。普通に会社員をしていたら絶対に出会わない人たちの育成歴や生活歴を知ることとなります。ショックを受けました。しかもそんな人たちが1人や2人ではないのです。「普通」の感覚が麻痺してきます。私の課は生活保護係も一緒なので、その話もよく聞くのですが、激しいですね。そして、「どう支援すればよいのか分からない」ことがザラにあります。その人の日常生活に直結することなので、資源のない中でどう支援するか、日々悩みは尽きません。

役所だし、事務員だからデスクワーク中心なのかなと思っていただけど、仕事の幅広くて驚いています。たまたま、私の異動先が連続してデスクワークじゃないところだった気もしますが、また、役所の異動は異動先によって転職のようだと言われますが、私は2回ともそうで、前課の知識はほぼ役に立ちません。平均3年で異動のところ、私は5年で3課目という短期間の異動で、今まで知らなかった世の中のことを、他の同期より知ることができているのかな〜と思うこの頃でした。



幼児教育課主催の京都旅行にて（著者は前列左端）